



【発行】林野庁 東北森林管理局

住所：青森県西津軽郡鵜ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82

津軽白神森林生態系保全センター

TEL：0173(72)2931 FAX：0173(72)2932

令和4年度第2回白神山地世界遺産地域巡視員会議（青森県側）の報告

白神山地の自然環境を保持するため、白神山地世界遺産地域巡視員（東北森林管理局、青森県及び環境省）『以下、巡視員とする』による巡視活動を行っており、今シーズンの巡視結果を共有し、より効率的な巡視活動を展開するため、令和4年12月1日（木）西目屋村中央公民館大研修室にて、令和4年度第2回白神山地世界遺産地域巡視員会議を開催しました。当日は、あいにくの吹雪となりましたが、巡視員をはじめ、白神山地世界遺産地域連絡会議構成機関から総勢38名が出席しました。

はじめに、東北森林管理局香月計画保全部長より、日頃の巡視活動の尽力への感謝と、ゴミ等のマナー違反が確認されていることから、各機関で認識を共有して意見交換をして頂きたい旨の挨拶がありました。

つづいて、議事へと移り各機関の事業実績の説明に始まり、巡視員による巡視活動状況の説明、合同パトロールの実施結果、核心地域への入山状況、樹木損傷等の状況、ニホンジカの確認情報などについて説明しました。特に今年度は、白神ライン等のアクセス道路が、県道岩崎西目屋線ののり面崩壊したため7月まで通行止となり、白神ラインの一部と町道赤石溪流線も残雪のため冬期通行止が6月まで解除されませんでした。更に、通行止解除後も度重なる大雨の影響を受け、各地で幹線道路が甚大な被害となったことで、合同パトロールの中止、入山者数も過去最小の16人とどまったこと、樹木損傷等は確認されなかったものの、ゴミの放置といったマナー違反が昨年度比18件増の31件だったこと等が報告されました。

その後、質疑応答では、ゴミの不法投棄を防止するための普及啓発活動の実施方法や、入山届の行程が明らかに不自然な事例が見受けられる申請への対応など、巡視員の方々からは多くの要望意見等を頂き、今後に向け検討することとしました。

最後に、津軽森林管理署佐藤署長より、記録的な豪雨が8月2度にわたって、白神山地を襲ったことで、アクセス道路を含めて大変条件が厳しい中での巡視活動への感謝や、貴重な現場の声を聞かせ頂き大変有意義だったとの挨拶がありました。



各機関からの説明の様子



巡視員からの質疑応答

来年は、白神山地世界遺産登録 30 年を向かえ、注目度も大変高まるものと期待しているところでもあり、貴重な自然を守るため巡視活動並びにマナー向上啓発活動を継続していきますので、白神山地を訪れる際は、マナーを遵守していただき、大自然を満喫していただければと思います。(高木)

晩秋のブナ林と青池を散策—第 2 回森林教室—

10 月 22 日(土)、深浦町内の十二湖において、深浦町との共催により、一般公募で応募いただいた 8 名で第 2 回森林教室を実施しました。

今回も前回に引き続き、深浦町役場からガイドさんを派遣していただき、十二湖、そして日本キャニオンの見所を紹介していただきながらの森林教室となりました。

出発前、まずは森の物産館キョロロ駐車場において開会式を行い、センター所長の高木より「ガイドさんの話を聞き、楽しみながら森林や十二湖周辺について学習してください」との挨拶の後、ブナ林と湖沼巡りを開始しました。



十二湖の看板前での説明

遊歩道を歩きながらガイドさんがしてくださる、「青池」をはじめとした湖沼群の成り立ち、色づきはじめた木々や足下に落ちている木の实についてなど様々な説明に、参加者の方たちも熱心に耳を傾けていました。もちろん、ガイドさんのお話は私自身にとっても勉強になり、楽しいものでした。

また、今年はブナのドングリが豊作で、足下に多くのドングリを拾うことができたのですが、それを喜んで拾う児童の姿に、実際に自然に触れることができる森林教室の意義を再認識しました。

昼食を挟み、午後は日本キャニオンの展望所で、雄大な景観を楽しみました。片道 20 分ほど、軽く汗をかいて到着すると、目前に荒々しい山肌と紅葉のコントラスト。参加者の皆さんも疲れを忘れ、暫し見入っていた様子でした。

最後に十二湖エコ・ミュージアムのご厚意で、施設を案内していただき、十二湖を中心とした白神山地について説明をいただいて、その日のプログラムは終了となりました。



散策中の様子

今回の第 2 回森林教室は、豪雨災害により開催が危ぶまれ、その後も十二湖周辺の被災により直前までルート等が決まらず、正直ヤキモキしましたが、前回に続き参加者の皆さんと一緒に有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。参加者の皆さん、ご協力いただいた関係者の皆さんに改めてお礼を申し上げます。

最後に、当センターの一般公募による行事はこれですべて終了いたしました。来年度もフィールドで多くの方とお会いできることを、心から楽しみにしております。(赤澤)